

3205 356

大正天皇實錄 卷六十七

圖書寮	
番號	64047
冊數	97
冊號	秘 4



皇紀
供
...

...

...

人
...

...

3205 357

頭註 傷者 〇〇

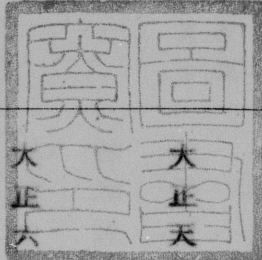
羅 〇〇 〇〇

別 〇〇 〇〇

人 〇〇

一人 〇〇 〇〇
若千人 〇〇 〇〇

松方正義
内大臣ニ任
ジ特ニ勅語
ヲ賜フ



大正天皇實錄 卷六十七
大正六年 實錄三十九歲

松方正義
内大臣ニ任
ジ特ニ勅語
ヲ賜フ

五月二日、表御座所ニ於テ親任式ヲ行ハセラレ、樞密
顧問官正二位大勳位侯爵松方正義ヲ内大臣ニ任ジ、特ニ
左ノ勅語ヲ賜フ。

朕卿カ積年ノ忠誠ニ倚信シ内大臣ノ重職ニ任ス朕卿
カ老耄ノ勦勞ヲ思ハサルニアラスト雖モ今日ノ時局

大正六年五月

一人ハ一名
若干人ハ若干
人ハ名
別
生
年
月
日

3205 359

頭註「供養」

頭註「供養」

大正六年五月

二

日本美術協
會 = 行幸

東京公使
十年奉祝博
覽會 = 行幸

卿ニ須ツモノ、妙カラス、卿具勞ヲ辭セス、啓沃輔弼セム
コトヲ望ム

因ニ内大臣ハ去年十二月公爵大山巖薨去以來、缺員タリ、
侍從職日記・進退
録・詔勅録・官報

是ノ日、午後一時、御出門、上野公園内日本美術協會ニ
行幸、會頭伯爵土方久元以下ニ謁ヲ賜ヒ、土方會頭ノ御
先導ニテ先ツ兩館ヨリ西館・本館ヲ觀覽アリ、尋イテ少
時庭園ノ茶亭ニテ獻上畫製作ヲ觀セラレ、午後二時三十
分同協會ヲ出デサセラル。是ヨリ更ニ東京美術五十年奉
祝博覽會場ニ行幸アリ、會長男爵武井守正等ニ謁ヲ賜ヒ、

圖書寮

皇族差遣

大正六年五月

三

武井會長ヲシテ先導セシメ、東海道五十三次模型參考館
會場内陳列場ヲ觀覽、三時十分便殿ニ入御アリ、偶々參
會セル内閣總理大臣伯爵寺内正毅・外務大臣子爵本野一
郎等ニ謁ヲ賜ヒ、三時四十分會場ヲ出デ、四時五分遠幸
アフセナル。
侍從職日記・輿情日記・侍從
武官府日誌・奉啓録・官報
五日、午前十時三十分鳳凰閣ニ出御、税關長政比ニ税
務監督局長會議ニ參列ノ爲メ上京セル神戸税關長野中清
以下十六名ニ謁ヲ賜フ。
侍從職日記・侍從武官府
日誌・拜謁參拜録・官報
六日、東京競馬俱樂部春季競馬會ニ博恭王ヲ遣サル。
尋イテ十九日ニハ日本競馬俱樂部春季競馬會ニ邦彦王ヲ

別冊(附)三信

人ハ...

一人ハ...

頭
目
録
欠

日本美術協
會ニ行幸

東京
十年
覽會ニ行幸

卿ニ須ツモノ
コトヲ望ム

因ニ内大臣ハ去年十二月公爵大山巖薨去以來缺員タリ。
侍從職日記・進退
録・詔勅録・官報
是ノ日、午後一時御出門、上野公園内日本美術協會ニ
行幸、會頭伯爵土方久元以下ニ謁ヲ賜ヒ、土方會頭ノ
先導ニテ先ツ兩館ヨリ西館・本館ヲ觀覽アリ、尋イデ少
時庭園ノ茶亭ニテ獻上齋製作ヲ嚮セラレ、午後二時三十
分同協會ヲ出デサセラル。是ヨリ更ニ東京美術五十年
祝博覽會場ニ行幸アリ、會長男爵武井守正等ニ謁ヲ賜ヒ

圖書寮

皇族差遣

武井會長ヲシテ先導セシメ、東海道五十三次模型參考館
會場内陳列場ヲ觀覽、三時十分便殿ニ入御アリ、偶々茶
會セル内閣總理大臣伯爵寺内正毅・外務大臣子爵本野一
郎等ニ謁ヲ賜ヒ、三時四十分會場ヲ出デ、四時五分遠幸
アフセラル。
侍從職日記・輿日記・侍從
武官府日記・幸啓録・官報
五日、午前十時三十分鳳凰閣ニ出御、税關長並ビニ稅
務監督局長會議ニ參列ノ爲メ上京セル神戸税關長野中清
以下十六名ニ謁ヲ賜フ。
侍從職日記・侍從武官府
日誌・拜謁參拜録・官報
六日、東京競馬俱樂部春季競馬會ニ博恭王ヲ遣サル。
尋イテ十九日ニハ日本競馬俱樂部春季競馬會ニ邦彦王ヲ

大正六年五月

遺サレ、且ツ兩度トモ優勝馬ニ賞ヲ賜ヘリ。侍從職日記・皇親錄・官報

七日、午前十時三十分參謀總長陸軍大將男爵上原勇作ニ謁ヲ賜ヒ、支那四川省及ヒ歐羅巴戰爭ノ狀況ヲ敍聞フ侍從職日記・侍從武官所日記

八日、午前十時御出門、皇后ト俱ニ公爵島津忠重邸ニ行幸アリ。便殿ニ於テ故菊麿王妃常子・邦彦王。同妃悦子ヲ始メ公爵島津忠重・妻伊儀子・内大臣侯爵松方正義・内閣總理大臣伯爵寺内正毅以下同家近親具ノ他親任官並ビニ具ノ妻等ニ謁ヲ賜フ。諸員ニ賜謁ノ後、忠重、天皇

圖書寮

忠重物ヲ進獻ス

席上揮毫天覽

ニ後小松天皇宸筆和漢朗詠集貳卷・主水正藤原朝臣正清銘刀壹振・吉野山蒔繪料紙文庫硯箱壹組・磁焼孔雀模様花瓶壹對ヲ、皇后ニ木村探元齋筆掛物參幅・菊花蒔繪文畫硯相壹組・磁焼山水模様花瓶壹對ヲ進獻ス。十一時四十分ヨリ藏品陳列場ニ臨御、什寶タル刀劍・甲冑具ノ他ヲ觀覽、天ヨリ新設食堂ニ進御、御覽覽アリ、參邸ノ皇族及ビ忠重・妻伊儀子ヲ始メ松方内大臣・妻滿佐子・寺内内閣總理大臣具ノ他ニ陪食ヲ賜フ。

午後、庭園ニテ柴燒、又室内ニテ薩摩琵琶・柴笛・席上揮毫・歐洲樂演奏等ノ御慰アリ。就中、席上揮毫ニ當

大正六年五月

五

頭註「侍從」

別々

人ハ...

一人ハ...

菊池陸軍少將御進講

リテハ初メ隣室ヨリ御覽アラセラルレシガ、遂ニ御椅子ヲ離レ玉歩ヲ筆者ノ近クニ進メサセラレ、出來スルヤ齋セ給フ御沙汰アリ。因ニ之ニ奉仕セル者ハ東京美術學校教授守崎廣榮・同小堀納音・同川合芳三郎・同結城貞松・同助教教授松岡輝天及び池田百合子ナリ。斯クテ五時同邸ヲ御出門、同四十五分還御アラセラル。猶ホ故菊池王妃常子・邦彦王・同妃悦子ヲ始メ忠重・妻伊藤子以下同家近親等ニ物ヲ賜ヘリ。

侍從職日記・侍從武官府日記・侍從武官府日記・幸啓録・官報・島津公爵家行幸啓記録

十一日、午後一時三十分陸軍少將菊池愼之助ヲ召シ、

圖書寮

樺山樞密顧問官ニ旭日親授
桐花大授章

作戦ト輸送トニ就キテ講演セシメラル。後、十月十二日ニモ同人ヲ召シ、謀報勤務ニ關スル講演ヲ爲サシメ給ヘリ。

侍從職日記・侍從武官府日記

十二日、午前十時三十分嵐風間ニ出御、勳章親授式ヲ行ハセラル。樞密顧問官海軍大將正二位勳一等功二級伯爵樺山資紀ニ旭日桐花大授章ヲ親授アラセラル。

侍從職日記・侍從武官府日記・官報・授典式録

是ノ日、海軍軍令部長海軍大將男爵島村速雄ニ謁ラ賜ヒ、地中海派遣第二特務艦隊ノ情報ヲ叡聞アラセラル。

侍從職日記・侍從武官府日記

頭註 侍從職日記

一人ハ一名
若干人ハ若干
人ハ名
別々ニ
生計ニ
信

陸軍經理學校
二行幸

十四日、午前十時三十分鳳凰閣ニ出御、海外ニ赴ク海軍中監小林幹等四名ニ謁ヲ賜フ。侍從職日記・侍從武官府日記・評議

十六日、午前十時三十分鳳凰閣ニ出御、海外ニ赴ク陸軍歩兵大佐松井兵三郎、海外ヨリ歸朝セル陸軍輜重兵大佐佐川瀨亨等ニ謁ヲ賜フ。侍從職日記・侍從武官府日記・評議

十七日、午前十時三十分鳳凰閣ニ出御、學校長會議ニ參列ノ爲メ上京セル東北帝國大學農科大學教授雨鷹次郎等三十三名ニ謁ヲ賜フ。侍從職日記・侍從武官府日記・評議

十八日、午前九時三十分御出門、陸軍經理學校ニ行幸、

圖書寮

慶香閣祇候
等ニ陪食ヲ賜フ

卒業式場ニ臨御、優等卒業生ニ賞ヲ賜ヒ、十一時四十二分還幸アラセラル。侍從職日記・侍從武官府日記・評議

十九日、正午貞愛親王・稔彦王ヲ召シ、竹間ニ於テ午餐ノ御催アリ、内大臣侯爵松方正義・宮内大臣男爵波多野敬直及ヒ慶香閣祇候公爵徳川家達・同侯爵黒田長敬・同侯爵山内豊京・舊五攝家タル公爵一條實輝・同九條道實・同近衛文麿等ニ陪食ヲ賜フ。侍從職日記・侍從武官府日記・評議

二十一日、午前十時三十分歐洲ニ赴ク陸軍工兵大尉松井命・陸軍歩兵中尉大久保俊次郎ニ謁ヲ賜フ。侍從職日記・評議

頭註 供養

一人ハ一名
若千人ハ若千
人ハ若千

大正六年五月

幸 華族會館行

二十二日、午前十時御出門、皇后ト俱ニ華族會館ニ行幸アリ。便殿ニ於テ依仁親王・同妃周子・博恭王・同妃經十ヲ始メ館長公爵徳川家達・妻泰子以下二十八名ニ謁ヲ賜フ。尋イデ能樂堂ニ臨御アラセラル。抑々堂ハ去ル大正四年即位大禮ノ際用キ給ヒシ處ヲ後日館ニ下賜セラレタルモノナリ。既ニシテ玉座ニ就カセラルルヤ、是ヨリ喜多・觀世・寶生各派ノ能ヲ天覽アリ、依仁親王以下ニ陪觀ヲ賜フ。先ツ喜多六平太等ハ弓八幡ヲ、野村萬作等ハ狂言粹縛ヲ、尋イデ觀世元滋等ハ雲雀山ヲ、寶生重英等ハ夜討曾我ヲ觀覽ニ供シ奉レリ。其ノ間、各派終ル

能・狂言天覽

圖書寮

陪食ヲ賜フ

毎ニ暫時便殿ニ於テ御少憩アリ、就中、喜多流ノ終ルヤ時俗モ正午ナルヲ以テ、依仁親王以下四十一名ニ午餐ノ陪食ヲ賜ヘリ。午後一時五十五分ヨリハ皇太子裕仁親王並ビニ直仁親王、同二時ヨリハ雅仁親王モ亦參館セルヲ以テ陪覽ヲ賜ヒ、龍顏殊ニ麗シク涉ラセラル。夕景ニ到リテ漸ク終演スルニ及ビ、五時二十分同館ヲ御出門、同三十分還幸アラセラル。侍從職日記・侍從武官府日誌・幸啓録・官報

二十四日、是ヨリ先、本月十八日多嘉王妃靜子分婉、第三女子誕生アリ、是ノ日恭仁子ト命名セルヲ以テ祝品ヲ賜フ。皇親錄・官報

恭仁子女王ノ命名ヲ祝シ給フ

大正六年五月

一

頭註 伊予...

一人ハ一名ヲ
若キ人ハ若キ
人ハ...

陸軍士官學校
行幸

是ノ日、午前十時三十分鳳凰閣ニ出御、正五位伯爵上野正雄等三十餘名ニ謁ヲ賜ヒ、天杯ヲ下賜セラル。侍從日記

記・侍從武官府日記・野田參拜録・官報

二十五日、午前九時御出門、陸軍士官學校ニ行幸、卒業式場ニ臨御、優等卒業生ニ賞ヲ賜ヒ、午後零時十七分還幸アラセラル。侍從日記・侍從武官府日記・野田參拜録・官報

是ノ日、英吉利國ヨリ歸朝セル海軍大佐金田秀太郎ヲ召シ、午後一時三十五分ヨリ射撃術ノ發達ニ就キテ講演セシメラル。侍從武官府日記

二十六日、午前十時三十分鳳凰閣ニ出御、亞米利加合

圖書寮

伊集院海軍大將ヲ元帥府ニ列ス

地方長官等ニ階賞ヲ賜フ

兼國ニ赴ク海軍中佐子爵堀田正路、英吉利國ヨリ歸朝セル海軍大佐金田秀太郎等ニ謁ヲ賜フ。侍從日記・侍從武官府日記・野田參拜録・官報

是ノ日、海軍大將正三位勳一等功一級男爵伊集院五郎ヲ元帥府ニ列シ、特ニ元帥ノ稱號ヲ賜フ。侍從日記・官報

二十九日、午前九時御出門、陸軍中央幼年學校ニ行幸、卒業式場ニ臨御、優等卒業生ニ賞ヲ賜ヒ、十一時五十五分還幸アラセラル。侍從日記・侍從武官府日記・野田參拜録・官報

六月一日、正午貞愛親王・稔彦王ヲ召シ、千種閣ニ於テ午餐ノ御儀アリ、内閣總理大臣伯爵寺内正毅・宮内大

頭註「伊集院海軍大將」

一人ハ一名ヲ
若千人ハ若ク
人ハ名ヲ
別々ニ記シ

赤坂離宮ニ
於テ幻燈ヲ
天覽

臣男爵波多野敬直・侍從武官長内山小二郎・侍從長公爵
 藤司照通・内務大臣男爵後藤新平・北海道廳長官儀孫一
 以下各地方長官ニ陪食ヲ賜フ。侍從職日記・侍從武官
 府日記・宣台録・官報

二日、午後一時三十分御出門、赤坂離宮ニ行幸、大食
 堂ニ於テ憲法發布ニ關スル幻燈ヲ皇后ト俱ニ觀覽、皇太
 子裕仁親王・雍仁親王・宣仁親王ヲ始メ各皇族・王族及
 ビ親任官・宮内官等ニ陪覽ヲ賜フ。尋イデ三時ヨリ一時
 間餘御苑内ヲ御遊歩、邊鋪園ニ於テ崇仁親王ニ謁ヲ賜ヒ、
 五時二十二分還幸アラセラル。侍從職日記・典侍日記・
 侍從武官府日記・幸啓録・

圖書寮

すといんニ
旭日大綬章
賜與

三日、遞信省備英吉利國人勳一等ういりあむ・へんりー・
 すといん病篤ニヨリ、旭日大綬章ヲ賜與セララル。其ノ
 趣クニ及ビ祭料金參千圓・花環壹個ヲ賜フ。因ニすとい
 ん明治五年四月工部省備トナリ、爾來、四十有五年一意
 專念帝國電信ノ改善發達ニ努メ、或ハ帝國ト外國電信會
 社トノ間ニ於ケル海底線ニ關スル諸約定締結ニ關與シ、
 其ノ功績渺カラザリシヲ以テナリ。恩賜
 錄

四日、午前十時三十分鳳凰閣ニ出御、海外ヨリ歸朝セ
 ル陸軍歩兵大佐岸本鹿太郎・海軍中佐漢那憲和・陸軍歩
 兵少佐角田政之助・河兒玉友雄・陸軍工兵中尉青柳三郎

頭註「伊のま」

一人ハ名ヲ
 若千人ハ若キ
 人ハ名ヲ

露國大使ヲ
御引見

波多野敬直
ヲ子爵ニ陞
ミラル

臨時外交調
査委員ヲ假

及ヒ海外ニ赴ク海軍少佐有馬寛・同山口熊平・陸軍歩兵
中尉中川清ニ謁ヲ賜フ。侍從職日記・侍從武官府
日記・拜謁參拜録・官報

五日、午前十時三十分鳳凰閣ニ出御、露西亞國特命全
權大使はじめる。くるべんすきーヲ御引見、信任狀ヲ受
クサセラル。侍從職日記・侍從武官
府日記・謁見録・官報

是ノ日、午前十一時再ヒ鳳凰閣ニ出御、爵記親授式ヲ
行ハセフレ、宮内大臣從二位勳一等男爵波多野敬直ヲ其
ノ勳功ニ依リ特ニ子爵ニ陞セラル。侍從職日記・授與式
録・授爵録・官報

六日、時局ノ擴大ニ鑑ミ水運ノ利害ヲ慮フセ給ヒ、側
近ニ臨時委員會ヲ特設シ、中外ノ情勢ヲ考査シテ應機啓

圖書寮

臨時外交調
査委員會委
員ノ任命

次ノ任ニ當フシムルノ必要ヲ認メサセラレ、臨時外交調
査委員會官制ヲ裁可シ給ヒ、之ヲ公布ス。同會ハ宮中ニ
置カレ、天皇ニ直練シテ時局ニ關スル重要ノ案件ヲ考査
審議ス。總裁一人・委員若干人ヲ以テ之ヲ組織シ、總裁
ハ内閣總理大臣ヲ以テ之ニ充テ、委員ハ國務大臣・内閣
總理大臣若クハ國務大臣タル前官ノ禮遇ヲ賜ハリタル者、
國務大臣タリシ者、又ハ親任官ノ中ヨリ簡拔シア之ヲ勅
命セラル。仍リテ午前十一時親補式ヲ行ハセラレ、内務
大臣男爵後藤新平・海軍大臣加藤友三郎・陸軍大臣大島
健一・外務大臣子爵本野一郎・正三位勳一等子爵平田東

頭註「借書」

別冊三信

人ハ...

一人ハ...

露國大使ヲ
御引見

波多野敬直
ヲ子爵ニ陞
メラル

臨時外交調
査委員ヲ設

及ヒ海外ニ赴ク海軍少佐有馬寛・岡山口熊平・陸軍歩兵
中尉中川清ニ謁ラ賜フ。侍從職日記・侍從武官府
日記・野論參拜録・官報

五日、午前十時三十分鳳凰閣ニ出御、露西亞國特命全
權大使はじめる。くるべんすきーヲ御引見、信任狀ヲ受
ケサセラル。侍從職日記・侍從武官
府日記・謁見録・官報

是ノ日、午前十一時再ビ鳳凰閣ニ出御、爵記親授式ヲ

行ハセフレ、宮内大臣從二位勳一等男爵波多野敬直ヲ具

ノ勳功ニ依リ特ニ子爵ニ陞セラル。侍從職日記・授與式
録・授爵録・官報

六日、時局ノ擴大ニ鑑ミ水遠ノ利害ヲ慮ラセ給ヒ、側
近ニ臨時委員會ヲ特設シ、中外ノ情勢ヲ考査シテ應機啓

圖書寮

臨時外交調
査委員會委
員ノ任命

次ノ任ニ當ラシムルノ必要ヲ認メサセラレ、臨時外交調
査委員會官制ヲ裁可シ給ヒ、之ヲ公布ス。同會ハ宮中ニ
置カレ、天皇ニ直隷シテ時局ニ關スル重要ノ案件ヲ考査
審議ス。總裁一人名・委員若干人名ヲ以テ之ヲ組織シ、總裁
ハ内閣總理大臣ヲ以テ之ニ充テ、委員ハ國務大臣・内閣
總理大臣若クハ國務大臣タル前官ノ禮遇ヲ賜ハリタル者、
國務大臣タリシ者、又ハ親任官ノ中ヨリ簡拔シテ之ヲ勅
命セラル。仍リテ午前十一時親補式ヲ行ハセラレ、内務
大臣男爵後藤新平・海軍大臣加藤友三郎・陸軍大臣大島
健一・外務大臣子爵本野一郎・正三位勳一等子爵平田東

一人ハ一名ヲ
若キ人ハ若キ名ヲ

助・正三位勳一等原敬・正三位勳一等男爵牧野伸顯・從二位勳一等子爵伊東巳代治・正三位勳二等大養毅ヲ具ノ委員ニ親補シ、又平田東助・原敬・牧野伸顯・伊東巳代治・大養毅ニ特ニ國務大臣ノ禮遇ヲ賜フ。尋イデ正午貞愛親王・鳩彦王ヲ召シ、千種間ニ於テ午餐ノ御催アリ、臨時外交調査委員會總裁伯爵寺內正毅以下各委員等ニ陪食ヲ賜フ。侍從職日記・侍從武官府日記・宣台録・官報

七日、午前十時三十分鳳凰間ニ出御、支那國哈爾濱ニ赴ク陸軍工兵中尉輿崎高雄ニ謁ヲ賜フ。侍從職日記・侍從武官府日記・官報

圖書寮

恭子女王
野長武ニ歸
嫁ヲ勅許

稻垣陸軍少
將ノ御進講

八日、博恭王第一女子恭子女王、從一位勳一等侯爵淺野長勳孫淺野長武ニ歸嫁スルヲ勅許アラセラル。尋イデ翌七年五月十七日女王ニ勳二等寶冠章ヲ授ケ、同月二十一日賀所・皇靈殿・神殿ニ參拜ノ後、朝見ノ儀ヲ行ハシメ、謁ヲ賜ヘリ。女王、同二十九日皇族ノ列ヲ出デ長武ニ嫁ス。乃チ當日祝品ヲ博恭王ニ賜ヘリ。皇親録・侍從職日記・官報

是ノ日、午後一時三十分陸軍少將稻垣三郎ヲシテ開戦後ノ英國ニ就キテ講演セシメ、側近奉仕者ニ陪聽ヲ賜フ。侍從職日記・侍從武官府日記

十日、午後六時伯爵土方久元ニ晚餐ノ陪食ヲ賜フ。侍從

頭註 傷者

人ハク...

3205 370

頭註
傷者トモス

大正六年六月

二〇

三條天皇九
百年式年祭

取日記・
與侍日記

十一日、三條天皇九百年式年祭ニヨリ、午前十時綾綺殿ニ渡御、皇靈殿御拜アリ、山陵ニハ華典立花寛篤ヲ勅使トシテ參向セシメラル。侍從職日記・侍從武官府日記・與侍日記・宮内省省報・儀式進退録・官報

十二日、午前十時三十分鳳凰間ニ出御、海外ニ赴ク海軍機關中佐横田春・海外ヨリ歸朝セル海軍機關少佐山下誠一・海軍造兵少監箕原勉ニ謁ヲ賜ヒ、又午前十時四十分表御座所ニ於テ海軍軍令部次長海軍中將山屋他人等十三名ニ謁ヲ賜フ。侍從職日記・侍從武官府日記・與侍日記・官報

圖書寮

李王ノ上京

李王ヲ御引見

晚餐ヲ賜フ

是ノ日、李王垢入京ニヨリ、勅使侍從子爵海江田幸吉ヲ派シテ爾處離宮ニ遣サル。因ニ李王ハ去ル八日京城ヲ出發、釜山ニテ軍艦ニ乘ジ、下關ニ上陸、下關・舞子・名古屋ニ各一泊シ、是ノ日著京セシナリ。尋イデ十四日午前十時二十分參内ス。仍リテ鳳凰間ニ於テ謁ヲ賜フ。天ヨリ隨員李王職長官子爵岡内爽・同次官國分象太郎・同賀侍子爵尹德榮・李王附武官陸軍副將子爵李秉武・李王職事務官玄百運・同金東完等ニ謁ヲ賜フ。皇后モ亦李王ニ謁ヲ賜ヘリ。十五日皇后ト俱ニ午後六時十分李王ノ局メニ豐明殿ニ於テ晚餐ノ御催アリ、貞愛親王・依仁親

大正六年六月

二一

人ハク...

別...

王・同妃周子・博恭王・邦彦王・同妃悦子・守正王・同妃伊都子・鳩彦王・同妃允子内親王・稔彦王・同妃聰子内親王・成久王・同妃房子内親王並ヒニ李王ヲ召シ、大勳位公爵山縣有朋・同侯爵松方正義・同伯爵東郷平八郎・内閣總理大臣伯爵寺内正毅・宮内大臣子爵波多野敬直・朝鮮總督伯爵長谷川好道・内務大臣男爵後藤新平・海軍大臣加藤友三郎・陸軍大臣大島健一・外務大臣子爵本野一郎・司法大臣松室致・文部大臣岡田良平・逓信大臣男爵出使治郎・農商務大臣仲小路廉・臨時外交調査委員會委員子爵平田東助・同男爵牧野伸顯・同子爵伊東巳代治・

圖書寮

正殿ニ於テ
李王ト舞樂
ヲ天覽

同犬養毅・樞密顧問官子爵末松謙澄・侍從武官長内山小二郎・侍從長公爵藤原可熱通・皇后宮大夫男爵大森鍾一・侯爵尹澤榮・子爵李載崑・閔李王職長官以下李王隨員等ニ陪食ヲ賜フ。餐後少時御休憩アリ、八時皇后ト俱ニ千種間ヲ經テ正殿ノ舞樂所ニ出御、皇族並ヒニ李王ヲ隨ヘ舞樂太平樂・納曾利ノ二曲ヲ観覽アリ、前記諸員等ニ陪覽ヲ賜フ。八時五十分入御、尋イデ皇族・李王退出ス。此ノ後、十九日午前十一時三十分李王請暇ノ爲メ參内セラルヲ以テ、鳳凰間ニ於テ御引見、勅語ヲ賜フ。尋イテ隨員ニモ賜語アリ。後、李王、桐間ニ於テ皇后ニ謁ス。正

正殿ニ於テ
李王ト舞樂
ヲ天覽

人ハク
別ニ
註ス

頭註 供養 一ヒス

李王ニ告別
ノ午餐ヲ賜

午皇后ト俱ニ豐明殿ニ出御、告別ノ爲メ午餐ヲ御催アリ、
守正王・同妃伊都子・鳩彦王・同妃允子内親王並ビニ李
王・王世子李垠ヲ召シ、松方内大臣・寺内内閣總理大臣・
波多野内大臣・長谷川朝鮮總督・内山侍從武官長・鷹
司侍從長及ビ李王隨員等ニ陪食ヲ賜フ。餐後、暫時千種
間ニ於テ御對話アリテ入御アフセブル。尋イデ侍從原恒
太郎ヲ勅使トシテ霞關離宮ニ遣シ、李王ニ御紋散架地書
棚及ビ銀花瓶ヲ賜フ。李王二十日退京ニ當リ重ネテ侍從
子爵海江田幸吉ヲ遣サレタリ。李王、三島・京都・嚴島・
下關・釜山ヲ經テ二十八日京城ニ歸著セリ。

圖書寮

石井菊次郎
ヲ米國ニ特
派ス

因ニ李王ノ入京ハ最初ナルヲ以テ諸事特ニ優遇アラセ
フレ、往還ニ於ケル官民ノ歡送迎モ亦頗ル盛ニシテ内鮮
融合上多大ノ效果アリシナリ。儀式錄・王公族錄・侍從
職日記・侍從武官所日記・
各省省報
十三日、親任式ヲ行ハセフレ、正三位勳一等子爵石井
菊次郎ヲ特命全權大使ニ任ジ、亞米利加合衆國ニ特派セ
シム。蓋シ歐洲事變當初ヨリ暫ク局外中立ヲ宣セル亞米
利加合衆國ノ聯合國一員トシテ大戰ニ參加スルヤ、英・
佛兩國ハ使節ヲ特派シテ敬謝ノ意ヲ表セルヲ以テ、扱ガ
國ニ於テモ亦其ノ意ヲ表スルト共ニ、此ノ際米國ヲシテ

人ハクダリ
別ニ其間ニ信

驅逐艦編成
戰ノ狀ヲ觀聞

支那ニ於ケル我カ特殊利益ヲ承認セシムルノ必要ヲ覺エ
 タレバナリ。サレバ天皇其ノ出發ニ先立テ七月五日大使
 及ビ其ノ隨員海軍中將竹下勇・陸軍少將菅野尙一・外務
 書記官永井松三・陸軍歩兵少佐谷川清治・海軍中佐安東
 昌尙等ヲ召シ、鳳凰閣ニ於テ謁ヲ賜ヒ、更ニ竹間ニ於テ
 午餐ノ御催アリ、博恭王・鳩彦王ヲ召シ、内大臣侯爵松
 方正毅・外務大臣子爵本野一郎ヲ始メ、任地白耳國ニ
 赴ク特命全權公使安達峰一郎及ビ遺米特派大使隨員等ニ
 陪食ヲ賜ヘリ。侍從職日記・侍從武官府日記・官報・
 宣台報・外交録(石井菊次郎著)

十四日、海軍軍令部長海軍大將男爵島村速雄ヲ召シ、

圖書寮

第二特務艦
隊ノ編成

驅逐艦種ノ奮戰狀況ヲ觀聞アラセラル。同艦ハ地中海方
 面ニ派セフレタル第十一驅逐隊所屬タリ。是ヨリ先、獨
 逸國艦隊ハ無制限潜水戰ヲ實施シ、地中海各方面ニ出沒
 暴威ヲ逞ワセルヲ以テ、聯合國商船ノ被害俄然増加スル
 ニ至リシカバ、本年二月七日二等巡洋艦明石・第十驅逐
 隊編成梅・榎・及ビ第十一驅逐隊編成杉・松・桐ヲ以テ新ニ第
 二特務艦隊ヲ編成シ、海軍少將佐藤學藏ヲ司令官ト爲シ、
 地中海方面ニ派シ、與國艦隊ト協同シテ作戰ニ當ラシム。
 仍リテ同艦隊ハ四月以來まるた島ヲ根據トシテ地中海全
 部ニ亘リ聯合與國船舶ノ護送ニ從事セリ。偶々五月四日

頭註 供...

人ハ...

驅逐艦編成
戰ノ狀ヲ觀聞

支那ニ於ケル我カ特殊利益ヲ承認セシムルノ必要ヲ覺エ
 タレバナリ。サレバ天皇其ノ出發ニ先立テ七月五日大使
 及ビ其ノ隨員海軍中將竹下勇・陸軍少將菅野向一・外務
 書記官永井松三・陸軍歩兵少佐谷川清治・海軍中佐安東
 昌爾等ヲ召シ、鳳凰閣ニ於テ謁ヲ賜ヒ、更ニ竹間ニ於テ
 午餐ノ御催アリ、博恭王・鳩彦王ヲ召シ、内大臣侯爵松
 方正毅・外務大臣子爵本野一郎ヲ始メ、任地白耳義國ニ
 赴ク特命全權公使安達峰一郎及ビ遺米特派大使隨員等ニ
 陪食ヲ賜ヘリ。特使職日記・特使武官府日記・官報・
 宣台錄・外交餘錄（石井菊次郎著）

十四日、海軍軍令部長海軍大將男爵島村速雄ヲ召シ、

圖書寮

第二特務艦
隊ノ編成

驅逐艦編成ノ實戰狀況ヲ觀聞アラセラル。同艦ハ地中海方
 面ニ派セフレタル第十一驅逐隊所屬タリ。是ヨリ先、獨
 逸國艦隊ハ無制限潜水戰ヲ實施シ、地中海各方面ニ出沒
 暴威ヲ逞ワセルヲ以テ、聯合國商船ノ被害俄然増加スル
 ニ至リシカバ、本年二月七日二等巡洋艦明石・第十驅逐
 隊編成梅・榎・榎及ビ第十一驅逐隊編成杉・松・榎ヲ以テ新ニ第
 二特務艦隊ヲ編成シ、海軍少將佐藤學藏ヲ司令官ト爲シ、
 地中海方面ニ派シ、與國艦隊ト協同シテ作戰ニ當ラシム。
 仍リテ同艦隊ハ四月以來まるた島ヲ根據トシテ地中海全
 部ニ亘リ聯合與國船舶ノ護送ニ從事セリ。偶々五月四日

楓(葉)欠

第十一驅逐隊ニ屬スル松及ヒ柳ハ陸兵三千ヲ載セタル英國運送船とらんしるばにヤヲ護送中、獨逸國潜水艦ノ爲メ同船ノ擊沈セラルルヤ、危險ヲ冒シ其ノ人員救助ニ當リ、其ノ任務ヲ全クセシガ、さろにかヨリまるた島ニ歸航ノ途、本月十一日多島海ニ於テ獨逸國潜水艦ト戦ヒ、其ノ雷撃ヲ受ケ大破損ヲ蒙リ、柳艦長海軍少佐上原太一以下五十餘名ハ遂ニ戦死セリ。侍從武官府日誌、世界大戦史

十五日、從四位候爵伊澤榮ヲ勳一等ニ敘シ、旭日大綬章ヲ授ケフル。官報

十九日、午前十時三十分海外ヨリ歸朝セル陸軍砲兵大

圖書寮

山本海軍大佐ノ御進講

帝國議會開院式ニ行幸

大正六年六月

二九

頭註「借書」

佐長野準四郎・陸軍砲兵大佐南部麒次郎・海外ニ赴ク陸軍歩兵大尉岡部直三郎・陸軍三等軍醫待田慶市並ビニ陸軍兵器本廠長陸軍少將町田彦二等ニ謁ヲ賜フ。侍從職日記、武官府日誌、官報

二十二日、午前十時三十分前中支那派遣隊司令官陸軍歩兵大佐高橋於菟丸ニ謁ヲ賜ヒ、任務狀況ヲ叡聞フラセラル。又午後一時三十分海軍大佐山本英輔ヲシテ歐洲戰爭ト海軍ニ就キテ講演セシメ、側近者ニ陪聽ヲ賜フ。侍從職日記、武官府日誌

二十三日、午前十時三十分御出門、貴族院ニ行幸、帝

人ハク...

別...

高岡定恭

國議會開院式ニ臨御、勅語ヲ賜ヒ、十一時二十五分還幸
 フセラル。猶ホ二十五日午前十時鳳凰閣ニ於テ貴族院
 議長公爵徳川家達・衆議院議長大岡育造ノ開院式勅語奉
 答書ヲ受ケサセラレ、更ニ勅語ヲ賜ヘリ。
侍從職日記・侍從武官府日記・國議會會報・官報

七月二日、午前十時三十分鳳凰閣ニ出御、海外ニ赴ク
 陸軍砲兵少佐小柳洋正藏・海軍少佐船越隆義・海軍少佐
 鹽澤幸一・海軍機關大尉三戸由彦、海外ヨリ歸朝セル海
 軍教授梅谷興一・陸軍二等主計正山村英太郎ニ謁ヲ賜フ。
侍從職日記・侍從武官府日記・國議會會報・官報

圖書寮

高岡定恭

三日、海軍中將從三位勳一等功四級男爵高岡定恭去ル
 一日薨セシガ、是ノ日送葬ニヨリ侍從男爵徳川義恕ヲ勅
 使トシテ具ノ邸ニ遣シ、祭料金千貳百圓及ヒ幣帛ヲ賜
 フ。定恭、舊松代藩士トシテ東征ニ從ヒ功アリ。明治十
 一年初メテ海軍ニ出身シテ累進現官ニ至ル。其ノ間、同
 十八年ニハ海上唯一ノ機關タル特殊發光信號燈ヲ發明シ、
 明治三十七八年戰役ニハ帷幕ニ畫策シ、功ニ依リ男爵ヲ
 授ケラル。其ノ他、海軍兵學校ニ入りテハ多年育英ノ任
 ニ當リ、練習艦隊司令官・竹敷要港部司令官・旅順鎮守
 府司令長官等ノ要職ヲ歴任シテ勳功懋カラザリシヲ以テ

人ハ...

九州帝國大學
學ニ侍從ヲ
差遣
陸軍戸山學
校ニ行幸

ナリ。恩賜錄・侍從
職日記・官報
五日、午前十時三十分鳳凰閣ニ出御、白耳義國ニ赴ク
特命全權公使安達峰一郎及ビ南洋群島ヨリ歸朝セル軍艦
淀兼員海軍中佐黒瀬清一以下七名等ニ謁ヲ賜フ。猶ホ軍
艦淀兼員海軍少佐井上桓征以下六名ニハ六日謁ヲ賜ヘリ。
侍從職日記・典侍日記・侍從武
官府日誌・判讀參拜錄・官報
是ノ日、九州帝國大學ニテ卒業式ヲ舉行スルニヨリ、
侍從伯爵清水谷實英ヲ遣シ、優等卒業學生ニ賞ヲ賜フ。
侍從職日記・官
報
七日、午前九時御出門、陸軍戸山學校ニ行幸、修業式

圖書寮

花房義實
賞

場ニ臨御、優等修業生ニ賞ヲ賜ヒ、十一時四十八分還幸
アツセラル。幸啓錄・侍從職日記・侍從武
官府日誌・典侍日記・官報
九日、樞密顧問官從二位勳一等子爵花房義實病篤キニ
ヨリ、特旨ヲ以テ位一級ヲ進メ正二位ニ叙シ、旭日桐花
大綬章ヲ加授セラレ、侍醫片山芳林ヲ病床ニ遣シ、又葡
萄酒ヲ賜ヒテ存問セシメラル。其ノ薨ズルヤ十二日侍從
大炊御門家政ヲ勅使トシテ邸ニ遣シ、祭料金參千圓・
生花・幣帛ヲ賜フ。義實、明治三年外務權少丞ニ出身以
來數官ヲ歴任シテ現官ニ累進シ、其ノ間、外交ノ機務ヲ
掌理シ、又多年宮内ノ樞機ニ膺リテ、功績妙カラザリシ

人ハクモ
別ニ生計ニ
行ク

ナリ。恩賜録・侍從
職日記・官報

五日、午前十時三十分鳳凰閣ニ出御、白耳義國ニ赴ク
特命全權公使安達峰一郎及ビ南洋群島ヨリ歸朝セル軍艦
泥栗員海軍中佐黒瀬清一以下七名等ニ謁ヲ賜フ。猶ホ軍
艦泥栗員海軍少佐井上桓征以下六名ニハ六日謁ヲ賜ヘリ
侍從職日記・典侍日記・侍從武
官府日誌・辨議參拜録・官報

九州帝國大
學ニ侍從ヲ
差遣

陸軍戸山學
校ニ行幸

是ノ日、九州帝國大學ニテ卒業式ヲ舉行スルニヨリ、
侍從伯爵清水谷實英ヲ遣シ、優等卒業學生ニ賞ヲ賜フ。
侍從職日記・官
内省省報・官報

七日、午前九時御出門、陸軍戸山學校ニ行幸、修業式

花房義實死
ズ

場ニ臨御、優等修業生ニ賞ヲ賜ヒ、十一時四十八分還
アフレラル。卒啓録・侍從職日記・侍從武
官府日誌・典侍日記・官報

九日、樞密顧問官從二位勳一等子爵花房義實病篤キ
ヨリ、特旨ヲ以テ位一級ヲ進メ正二位ニ敘シ、旭日桐
大綬章ヲ加授セフレ、侍醫片山芳林ヲ病床ニ遣シ、又
葡萄酒ヲ賜ヒテ存問セシメラル。其ノ薨ズルヤ十二日侍
大炊御門家政ヲ勅使トシテ邸ニ遣シ、祭料金參千圓
生花・幣帛ヲ賜フ。義實、明治三年外務權少丞ニ出身
來數官ヲ歴任シテ現官ニ累進シ、其ノ間、外交ノ機務
掌理シ、又多平宮内ノ權機ニ膺リテ、功績渺カラサリ

東京帝國大學
學ニ行幸

京都帝國大學
學ニ皇族・
侍從ヲ差遣

明治天皇五
年式年祭御
親祭

ヲ以テナリ。侍從職日記・恩賜録・官報

十一日、午前九時三十分御出門、東京帝國大學ニ行幸、卒業式場ニ臨御、優等卒業學生ニ賞ヲ賜ヒ、午後零時十分還幸アラセラル。侍從職日記・侍從武官府日誌・侍從日記・幸啓録・官報

十三日、京都帝國大學ニ於テ卒業式ヲ舉行スルニヨリ、邦彦王及ビ侍從日根野要吉郎ヲ遣シ、優等卒業學生ニ賞ヲ賜フ。侍從職日記・宮内省官報・進退録・官報

三十日、明治天皇五年式年祭ニヨリ親祭アラセラル、御名代トシテ戰仁親王ヲ伏見桃山殿ニ參向セシメ給フ。侍從職日記・侍從武官府日誌・祭配録・儀式録・官報

圖書寮

日光ニ御遊
幸トシテ行
幸

供奉員

八月一日、御避暑ノ爲メ皇后ト俱ニ午前七時十五分御出門、正午日光田母澤御用邸ニ安著アラセラル。爾後、駐蹕四十日餘、其ノ間ニ於ケル御動靜ハ概ネ前年ノ如シ。猶ホ行幸中供奉ヲ命セラレタル者ハ、宮内大臣子爵波多野敏直ヲ始メ宮内次官石原健三・宮内書記官大谷正男・同杉塚磨・同淺田惠一・同吉田平吾・同仙石政敬・同市來政方・同大木舞雄・宮内大臣秘書官近藤久敬・同上野季三郎・侍從長公爵藤司照通・侍從次長伯爵德川連孝・侍從原恒太郎・同子爵松浦靖・同大炊御門家政・同子爵海江田幸吉・同男爵德川義想・同河野實英・同日根野要

頭註
供奉員

人ハク...

別...

東京帝國大學
學ニ行幸

京都帝國大學
學ニ皇族・
侍從ヲ差遣

明治天皇五
年式年祭御
親祭

ヲ以テナリ。侍從職日記・恩賜録・官報

十一日、午前九時三十分御出門、東京帝國大學ニ行
卒業式場ニ臨御、優等卒業學生ニ賞ヲ賜ヒ、午後零時
分還幸アラセラル。侍從職日記・侍從武官府日記・
典侍日記・幸啓録・官報

十三日、京都帝國大學ニ於テ卒業式ヲ舉行スルニヨ
邦彦王及ヒ侍從日根野要吉郎ヲ遣シ、優等卒業學生ニ
ヲ賜フ。侍從職日記・宮内省
復報・進退録・官報

三十日、明治天皇五年式年祭ニヨリ親祭アフレ
御名代トシテ戰仁親王ヲ伏見桃山殿ニ參向セシメ給フ
侍從職日記・典侍日記・侍從武官
府日記・祭配録・儀式録・官報

日光ニ御遊
幸トシテ行
幸啓

供奉員

八月一日、御避暑ノ爲メ皇后ト俱ニ午前七時十五分
出門、正午日光田母澤御用邸ニ安着アラセラル。爾後
駐蹕四十日餘、其ノ間ニ於ケル御動靜ハ概ネ前年ノ如
猶ホ行幸中供奉ヲ命セラレタル者ハ、宮内大臣子爵波
野敬直ヲ始メ宮内次官石原健三・宮内書記官大谷正男
同杉塚磨・同淺田惠一・同吉田平吾・同仙石政敬・同
來政方・同大木舞雄・宮内大臣秘書官近藤久敬・同上
季三郎・侍從長公爵鷹司照通・侍從次長伯爵德川達孝
侍從原恒太郎・同子爵松浦端・同大炊御門家政・同子
海江田幸吉・同男爵德川義恕・同河野實英・同日根野

御遊
幸啓

上原參謀總長ニ勅語ヲ賜フ

吉郎・同男爵澤宣元・同石山基陽・同伯爵清水谷實英・同洛合為誠・同子爵黒田長敬・侍從武官長内山小二郎・侍從武官向井彌一・同渡邊為太郎・同四龜孝輔・同尾藤知勝・同中田鐵五郎・皇后宮大夫男爵大森鍾一・皇后宮主事三至戸敬光・同蜂須賀正韶・内大臣秘書官北村信篤・同日高秩父・侍醫相磯健・同池邊棟三郎・同片山芳林等ナリ。
侍從職日記・典侍日記・侍從武官府日誌・幸啓録・官報

二日、參謀總長陸軍大將男爵上原勇作ニ左ノ勅語ヲ賜フ。
朕卿ノ病ヲ痛ム然レトモ時局重大ナリ宜シク任ニ留

山根一真死ス

リテ加養シ續テ軍務ヲ執ルニ勉メヨ
蓋シ勇作病ニヨリ、本職ヲ退カント欲セルヲ以テ特ニ此ノコトアリシナリ。
勅勅録

是ノ日、東宮武官長陸軍少將正四位勳三等功四級男爵山根一真病篤キニヨリ、特旨ヲ以テ位一級ヲ進メ從三位ニ叙シ、物ヲ賜ヒテ存問アラセラル。其ノ薨スルヤ四日侍從子爵黒田長敬ヲ勅使トシテ邸ニ遣シ、祭料金千圓・幣帛ヲ賜フ。一真、明治二十五年三月陸軍歩兵少尉ニ任セラレ、累進現官ニ至ル。其ノ間、同三十五年十二月皇族附武官ニ補セラレ、後、侍從武官・東宮武官長ノ職ニ

人ハクダシ

上原參謀總長ニ勅語ヲ賜フ

吉郎・同男爵澤宣元・同石山基陽・同伯爵清水谷實英
 同洛合爲誠・同子爵黒田長敬・侍從武官長内山小二郎
 侍從武官向井彌一・同渡邊爲太郎・同西龜孝輔・同尾
 知勝・同中田鐵五郎・皇后宮大夫男爵大森鍾一・皇后
 主事三至戸敬光・同峰須賀正韶・内大臣秘書官北村信
 同日高秩父・侍醫相磯健・同池邊棟三郎・同片山芳林
 ナリ。侍從職日記・典侍日記・侍從
 武官府日記・幸啓録・官報
 二日、參謀總長陸軍大將男爵上原勇作ニ左ノ勅語ヲ
 賜フ。
 朕卿ノ病ヲ痛ム然レトモ時局重大ナリ宜シク任ニ

山根一貫兼

リテ加養シ續テ軍務ヲ執ルニ勉メヨ
 蓋シ勇作病ニヨリ、本職ヲ退カント欲セルヲ以テ特ニ
 ノコトアリシナリ。勅諭
 録
 是ノ日、東宮武官長陸軍少將正四位勳三等功四級男
 山根一貫病篤キニヨリ、特旨ヲ以テ位一級ヲ進メ從三
 ニ叙シ、物ヲ賜ヒテ存問アフセラル。其ノ薨スルヤ四
 侍從子爵黒田長敬ヲ勅使トシテ邸ニ遣シ、祭乘料金千
 幣帛ヲ賜フ。一貫、明治二十五年三月陸軍歩兵少尉ニ
 セラレ、素戔現官ニ至ル。其ノ間、同三十五年十二月
 族附武官ニ補セラレ、後、侍從武官・東宮武官長ノ職

在リ、備近ニ奉仕スルコト多年、勤勞渺カラザリシヲ以テナリ。特從職日記・恩賜録・官報

英國皇帝
よじ第五
世親電ヲ寄
ス

六日、歐羅巴大戰開始以來既ニ三年ノ月日ヲ閱セルニヨリ、英吉利國皇帝じよじ第五世ハ大戰參加記念日ニ當ル一昨四日電報ヲ寄セ、「今向ホ進行セル現時ノ大戰ニ我國ノ參加セシ此第三年ノ記念日ニ際シ朕ハ茲ニ我聯合ノ努力終ニ其功ヲ奏シ且ツ我共同ノ目的其達成ヲ待ルマテ此戰ヲ繼續スヘキ我帝國ノ確乎タル決心ヲ陛下ニ表彰メント欲ス我聯合國民ノ不撓ナル意志ト我聯合軍ノ勇取ニ依リテ最後ノ勝利ヲ收メ以テ人道ノ平和ナル進歩ヲ

圖書寮

御答電

見ルヘキ期待ニ對シテ陛下モ亦朕ト其意ヲ同フセラルヘキコトヲ確信スルヲ以テ朕ノ幸福トスル旨ヲ報セリ。是ニ於テ天皇モ亦是ノ日御答電ヲ發セラレ、平乎タル決意ト確信トヲ示サレタル陛下ノ雄壯ナル聲明ハ適サニ此大戰ニ關シ朕竝ニ朕ノ臣民カ懷抱スル感念ニ合致スルモノニシテ朕ハ深ク之ヲ欣快トシ且ツ謝意ヲ表セムトス惟フニ陛下ノ陸海軍ノ壯烈ナル勇氣ハ其光榮ヲ竹帛ニ垂レタリ陛下ノ臣民カ同心協力國家ニ貢獻スルハ均シク天下ノ嘆賞ニ値ス此不撓ナル努力ノ成果ハ素ヨリ明白ニシテ遠カラス聯合

人ハ...

大正六年八月

四〇

司令官・師團長等更迭

英國カ完全ナル捷利ニ到達スヘキハ朕ノ斷シテ疑ハサル所ナリ

ト宣ハセラレタリ。 外交 録・官報

是ノ日、青島守備軍司令官陸軍大將正三位勳一等功二級大谷喜久藏並ビニ朝鮮駐劄軍司令官陸軍大將從三位勳一等功二級秋山好古ノ本職ヲ免ジ軍事參議官ニ、東京衛戍總督陸軍中將從三位勳一等功二級松川敏胤ノ本職ヲ免ジ朝鮮駐劄軍司令官ニ、近衛師團長陸軍中將從三位勳一等功三級仁田原重行ノ本職ヲ免ジ東京衛戍總督ニ、第一師團長陸軍中將從三位勳一等功三級本郷房太郎ノ本職ヲ

圖書寮

其ノ郵?

邦彦王ヲ第十五師團長ニ守正王ヲ第十六師團長ニ補ス

木戸孝正

免ジ青島守備軍司令官ニ、第十五師團長陸軍中將正四位勳二等功三級由比光衛ノ本職ヲ免ジ近衛師團長ニ、陸軍中將從四位勳二等功三級河合操ヲ第一師團長ニ、同福田雅太郎ヲ第五師團長ニ、同町田經宇ヲ第十一師團長ニ、陸軍中將大勳位功四級邦彦王ヲ第十五師團長ニ、同守正王ヲ第十六師團長ニ補シ、第十六師團長陸軍中將山口勝・第五師團長陸軍中將小原傳・第十一師團長陸軍中將蟬崎富三郎ノ本職ヲ免ジ待命仰付ケラル。 報官

十日、西中顧問官從二位勳二等侯爵木戸孝正病篤キニヨリ、特旨ヲ以テ位一級ヲ進メ正二位ニ敘シ、物ヲ賜ヒ

大正六年八月

四一

功
人
ハ
...

松岡康毅・
奥田義人ニ
男爵ヲ授ク
菊池大龍宛
ズ

テ存問セラル。其ノ薨ズルヤ祭料金貳千五百圓ヲ賜ヒ、
更ニ十三日送葬ニ當リ侍從河崎實英ヲ邸ニ遣シ幣帛ヲ賜
ヘリ。孝正、明治二十二年一月主簿官ニ出身以來、在官二
十八年餘、其ノ間、東宮侍從長トシテ側近ニ奉仕シ、或
ハ閑院宮別當ヲ兼任シテ載仁親王ヲ輔翼セシ等功績渺カ
ラザリシヲ以テナリ。侍從職日記・
恩賜録・官報
十四日、從二位勳一等松岡康毅・正三位勳一等奥田義
人ニ勳功ニ依リ男爵ヲ授ケサセラル。授爵録・授典
式録・官報
二十日、樞密顧問官正三位勳一等男爵菊池大龍病篤キ
ニヨリ、特旨ヲ以テ位一級ヲ進メ從二位ニ叙シ、旭日大

圖書寮

綬章ヲ加授セフレ、物ヲ賜ヒテ存問セラル。其ノ薨ズル
ヤ祭料金參千圓ヲ賜ヒ、更ニ二十二日侍從日根野要吉
郎ヲ勅使トシテ邸ニ遣シ幣帛ヲ賜ヘリ。大龍、明治十年
東京大學理學部四等教授ノ任ヲ賜セラレ、尋イテ理科大
學教授兼理科大学長トナリ、文部省專門學務局長ヲ兼ネ、
又部次官・東京帝國大學總長等ヲ歴任、累進シテ文部大
臣トナリ、同三十五年勳功ニ依リ男爵ヲ授ケラル。後、
樞密顧問官ニ擢デラレ、其ノ間、學習院長・京都帝國大
學總長トナリ、多年學府ノ要路ニ膺リ斯界ニ貢獻シタル
功績渺カラザリシヲ以テナリ。侍從職日記・
恩賜録・官報

人ハ...

松岡康毅・
奥田義人ニ
男爵ヲ授ケ
菊池大龍死
ズ

テ存問セラル。其ノ薨ズルヤ祭料金貳千五百圓ヲ賜ヒ、
更ニ十三日送葬ニ當リ侍從河崎實英ヲ邸ニ遣シ幣帛ヲ賜
ヘリ。孝正、明治二十二年一月主簿官ニ出身以來、在官二
十八年餘、其ノ間、東宮侍從長トシテ備近ニ奉仕シ、或
ハ閑院宮別當ヲ兼任シテ戰仁親王ヲ輔翼セシ等功績渺カ
ラザリシヲ以テナリ。侍從職日記・
恩賜録・官報
十四日、從二位勳一等松岡康毅。正三位勳一等奥田義
人ニ勳功ニ依リ男爵ヲ授ケサセラル。授爵録・授典
式録・官報
二十日、樞密顧問官正三位勳一等男爵菊池大龍病篤キ
ニヨリ、特旨ヲ以テ位一級ヲ進メ從二位ニ叙シ、旭日大

紋章ヲ加授セラレ、物ヲ賜ヒテ存問セラル。其ノ薨ズル
ヤ祭料金參千圓ヲ賜ヒ、更ニ二十二日侍從日根野要吉
郎ヲ勅使トシテ邸ニ遣シ幣帛ヲ賜ヘリ。大龍、明治十年
東京大學理學部四等教授ノ任ヲ賜セラレ、尋イテ理科大
學教授兼理科大学長トナリ、文部省專門學務局長ヲ兼ネ、
文部次官・東京帝國大學總長等ヲ歴任、累進シテ文部大
臣トナリ、同三十五年勳功ニ依リ男爵ヲ授ケラル。後、
樞密顧問官ニ擢デラレ、其ノ間、學習院長・京都帝國大
學總長トナリ、多年學府ノ要路ニ膺リ斯界ニ貢獻シタル
功績渺カラザリシヲ以テナリ。侍從職日記・
恩賜録・官報

長田義人 薨ズ

二十一日、帝室制度審議會委員正三位勳一等男爵長田義人病篤ニヨリ、特旨ヲ以テ位一級ヲ進メ從二位ニ敘シ、物ヲ賜ヒテ存問セラル。其ノ薨ズルヤ祭葬料金參千圓ヲ賜ヒ、更ニ二十五日侍從日根野要吉郎ヲ邸ニ遣シ幣帛ヲ賜ヘリ。義人、明治十九年農商務省參事官拜命以來累進シテ拓殖務次官ニ任セラレ、各省次官・法制局長官等ノ要職ニ或ハ文部大臣・司法大臣ニ任セラレ、傍ラ法典調査會委員・法律取調委員トシテ法典ノ編纂ニ努メ、又官中ニ在リテハ帝室制度調査局御用掛・皇室令整理委員・帝室制度審議會委員等ニ奉任シ、皇室制度ノ調査審

圖書寮

星野恒 薨ズ

議ニ力ヲ致シ、其ノ功績渺カラザリシヲ以テナリ。侍從 職日 記・恩賜 錄・官報

二十四日、侯爵大隈重信病ニヨリ侍從伯爵清水谷實英ヲ其ノ邸ニ遣シ、物ヲ賜ヒ存問セシメラル。侍從 職日 記・恩賜 錄

九月九日、東京帝國大學文科大学教授從三位勳二等星野恒病篤ニヨリ、特旨ヲ以テ位一級ヲ進メ正三位ニ敘シ、勳一等瑞寶章ヲ授ケラル。其ノ薨ズルニ及ビ祭葬料金七百圓ヲ賜ヒ、十三日送葬ニ當リ侍從子爵松浦靖ヲ勅使トシテ邸ニ遣シ幣帛ヲ賜ヘリ。恒、明治十四年十二月四等編修官ニ出身ノ後、修史局編修ヲ命セラレ、尋イテ

人ハ...

定 設 嘉ノ御治

警 京ニ還幸

文科大學教授ト爲リ、カヲ教育ニ效シ、曾テ年表草案調
査委員トナリ、又御講書始ニ漢書ヲ進演^講セシ等勞績カ
ラザリシヲ以テナリ。侍從職日記・
恩賜録・官報

十一日、後崇光太上天皇^立ヒニ後伏見天皇皇曾孫榮仁
親王・同皇玄孫治仁王ノ陵墓ヲ御治定アリ、猶ホ後崇光
太上天皇ノ御陵號ヲ伏見松林院^陵ト稱セラル。尋イデ二
十七日ニハ垂仁天皇皇子磐衝別命^立ヒニ同天皇皇孫磐城
別王、後鳥羽天皇皇子頼仁親王ノ各墓ヲモ治定アラセ
レタリ。官報・
設 嘉 録

十二日、午前七時十五分皇后ト俱ニ日光田母澤御用邸

圖書寮

伊 國大使ヲ
御引見

御出門、同四十分日光停車場御發車、十一時二十五分上
野停車場著御、正午宮城ニ還幸アラセラル。侍從職日記・
幸啓録・
官報

十三日、貞愛親王・敏仁親王ヲ始メ、參謀次長陸軍中
將田中義一ニ勅ヲ賜ヒ、畿一ラシテ大正七年度動員計畫
ニ關スル件ヲ奏セシム。侍從職日記・侍
從武官府日記

十七日、午前十時三十分鳳凰間ニ出御、伊太利國特命
全權大使侯爵^のいじ・じえろらも・くざに・こんふあ
ろにえりヲ御引見、信任狀及ヒ前任特命全權大使侯爵^の
りすと・くつき・はあつそノ解任狀^立ヒニ伊太利國皇帝

人ハ

演ヲ請ニ訂ビ

文科大學教授ト爲リ、カヲ教育ニ效シ、曾テ年表草案調査委員トナリ、又御講書始ニ漢書ヲ進演^請セシ等勞績渺カフザリシヲ以テナリ。侍從職日記・恩賜錄・官報

十一日、後崇光太上天皇竝ビニ後伏見天皇皇曾孫榮仁親王・同皇玄孫治仁王ノ陵墓ヲ御治定アリ、猶ホ後崇光太上天皇ノ御陵號ヲ伏見松林院陵ト稱セラル。尋イデニ十七日ニハ垂仁天皇皇子磐衝別命竝ビニ同天皇皇孫磐城別王、後鳥羽天皇皇子頼仁親王ノ各墓ヲモ治定アラセラレタリ。官報・侍從職日記・恩賜錄

十二日、午前七時十五分皇后ト俱ニ日光田母澤御用邸

東京ニ遷幸

定 説 墓ノ御治

使ヲ請ニ訂

伊國大使ヲ御引見

御出門、同四十分日光停車場御發車、十一時二十五分上野停車場着御、正午宮城ニ遷幸アラセラル。侍從職日記・幸營錄・官報

十三日、貞愛親王・戰仁親王ヲ始メ、參謀次長陸軍中將田中義一ニ謁ヲ賜ヒ、義一ラシテ大正七年度動員計畫ニ關スル件ヲ奏セシム。侍從職日記・侍從武官府日記

十七日、午前十時三十分鳳凰閣ニ出御、伊太利國特命全權大使侯爵るいじ・じえろらも・くざに・こんふあろにえリヲ御引見、信任狀及ヒ前任特命全權大使侯爵ふのりすと・くつき・はあつそノ解任狀竝ビニ伊太利國皇帝

伊國大使ニ
陪食ヲ賜フ

ヨリ皇太子裕仁親王ニ贈ラルルあんのんしあーど勳章ヲ
受ケサセラル。仍リテ即日同國皇帝ニ謝電ヲ發送アラセ
ラル。尋イデ二十八日午後零時三十分皇后ト俱ニ豐明殿
ニ出御、依仁親王・同妃周子・博恭王・同妃經子ヲ召シ、
午餐ノ御備アリ、こんふゐろにえり大使並ビニ同妻及ビ
内大臣侯爵松方正義・宮内大臣子爵波多野敬直・外務大
臣子爵本野一郎等ニ陪食ヲ賜フ。侍從職日記・侍從武官
府日記・輿侍日記・編
見録・
官報

十九日、午前十時四十分風風間ニ出御、海外ニ赴ク陸
軍騎重兵中佐服部英勇・陸軍騎兵中佐栗原幸衛等ニ謁フ

圖書寮

臨時教育會
議ヲ設ク

賜フ。侍從職日記・侍從武官府
日記・輿議參事録・官報

二十一日、中外ノ情勢ニ照シ、國家ノ將來ニ稽ヘ内閣
ニ委員會ヲ置キ、教育ニ關スル制度ヲ審議シ、其ノ振興
ヲ圖フシムルノ必要アルヲ以テ、臨時教育會議官制ヲ裁
可シ給ヒ、之ヲ公布ス。同會ハ内閣總理大臣ノ監督ニ屬
シ、教育ニ關スル重要事項ヲ調査審議スルニアリ。總裁・
副總裁各一人及ビ委員四十人以内ヲ以テ之ヲ組織シ、總
裁及ビ副總裁ハ内閣總理大臣ノ奏請ニ依リ之ヲ勅命セラ
レ、委員及ビ臨時委員ハ内閣總理大臣ノ奏請ニ依リ内閣
ニ於テ之ヲ命ジ、文部大臣ニハ會議ニ出席シテ意見ヲ陳

人々

伊國大使ニ
陪食ヲ賜フ

ヨリ皇太子裕仁親王ニ贈ララルルあんのんしあーど勳章ヲ
受ケサセラル。仍リテ即日同國皇帝ニ謝電ヲ發送アラセ
ラル。尋イデ二十八日午後零時三十分皇后ト俱ニ豐明殿
ニ出御、依仁親王・同妃周子・博恭王・同妃經子ヲ召シ、
午餐ノ御儀アリ、こんふゑろにえり大使並ビニ同妻及ビ
内大臣侯爵松方正義・宮内大臣子爵波多野敬直・外務大
臣子爵本野一郎等ニ陪食ヲ賜フ。侍從殿日記・侍從武官
府日記・興行日記・調
見録・
官報

十九日、午前十時四十分鳳凰閣ニ出御、海外ニ赴ク艦
軍輪重兵中佐服部英勇・陸軍騎兵中佐栗原幸衛等ニ謁フ

臨時教育會
議ヲ設ク

賜フ。侍從殿日記・侍從武官府
日記・評議參事録・官報

二十一日、中外ノ情勢ニ照シ、國家ノ將來ニ稽ヘ内閣
ニ委員會ヲ置キ、教育ニ關スル制度ヲ審議シ、其ノ振興
ヲ圖ラシムルノ必要アルヲ以テ、臨時教育會議官制ヲ裁
可シ給ヒ、之ヲ公布ス。同會ハ内閣總理大臣ノ監督ニ屬
シ、教育ニ關スル重要事項ヲ調査審議スルニアリ。總裁・
副總裁各一人名及ビ委員四十人名以テ之ヲ組織シ、經
裁及ビ副總裁ハ内閣總理大臣ノ奏請ニ依リ之ヲ勅命セフ
レ、委員及ビ臨時委員ハ内閣總理大臣ノ奏請ニ依リ内閣
ニ於テ之ヲ命ジ、文部大臣ニハ會議ニ出席シテ意見ヲ陳

人ハタカ

後陽成天皇
三百年式年
祭
伏見天皇六
百年式年祭

巡スルコトヲ得セシム。尋イテ正三位勳一等子爵平田東
助ニ總裁ヲ、從三位勳一等男爵久保田讓ニ副總裁ヲ、正
三位勳二等小松原英太郎・從三位勳一等一木喜徳郎等三
十六名ニ委員ヲ仰付ケラル。報官

二十四日、秋季皇靈祭ニヨリ親祭ヲ行ハセラル。侍從
記・典侍日記・侍從武官府日記・
宮内省省報・祭記録・官報

二十五日、後陽成天皇三百年式年祭ニヨリ親祭ヲ行ハ
セラル、華典宮地殿夫ヲ勅使トシテ山陵ニ参向セシム。
又十月十六日ニハ伏見天皇六百年式年祭アリ、其ノ儀今
日ノ如シ。猶ホ山陵ニハ勅使華典伯爵烏丸光大ヲ参向セ

圖書寮

陸軍騎兵學
校行幸

シメフレタリ。侍從職日記・典侍日記・侍從武官
府日記・儀式録・祭記録・官報

二十六日、午前十時三十分御座所ニテ海軍造船總監淺
岡滿俊・陸軍少將岡澤慶三郎等ニ謁ヲ賜フ。侍從職日記・
侍從武官府
誌日

二十七日、午前八時三十分御出門、兩國停車場ヨリ汽
車ニ乘御、津田沼停車場ニテ御下車アリ、十時陸軍騎兵
學校ニ行幸、終業證書授與式ニ臨マセラル。即チ著御ノ
後、便殿ニ於テ校長陸軍少將植野徳太郎等ニ謁ヲ賜ヒ、
御休憩暫時ニシテ覆馬場ニ出御、卒業生及ビ教官ノ馬術
ヲ天覽アリ、更ニ玉步ヲ障礙飛越場ニ進メ給ヒテ、終業

供奉員

生ノ陣侍飛越ラ觀覽、尋イデ校内ヲ一巡アラセラレ、少
 時便殿ニ復シ給フ。夫ヨリ再ビ御徒歩ニテ通用門ヨリ習
 志野練兵場ニ出御、戰鬪教練ヲ天覽ノ後、終業式場タル
 馬見場ニ臨マセフレ、優等終業學生ニ賞ヲ賜フ。式後便
 殿ニ於テ御晝餐アリ、一時四十分同校ヲ御出門、往路ヲ
 經テ三時十分還幸アラセラル。猶ホ行幸ニ當リ供奉ヲ命
 セラレタル者ハ、宮内大臣子爵波多野敬直。宮内大臣秘
 書官上野季三郎。侍從長公爵藤原源通。侍從原恒太郎。
 同大炊御門家政。同子爵海江田幸吉。侍從池邊棟三郎。
 侍從武官長内山小二郎。侍從武官向井彌一。同渡邊爲太

郎等ニシテ、宮廷列車ニハ元帥伯爵奧保章。陸軍大臣大
 島健一。教育總監陸軍大將一戸兵衛等モ陪乘セリ。
 因ニ同校ハ元陸軍騎兵實施學校ト稱シ、在原郡目黒村
 ニ在リテ、其ノ終業式ニハ屢々臨ミ給ヒシガ、昨年十二
 月習志野ニ移轉シ、本年九月十四日陸軍騎兵學校ト改定
 アリ。是ニ於テ今回ノ行幸ハ同校移轉改定後最初ノモノ
 ナリ。爾後ハ概ネ終業式ニ當リ侍從武官ヲ差遣セラレタ
 リ。侍從職日記・侍從武官
 府日誌・幸啓集・官報

3205 394

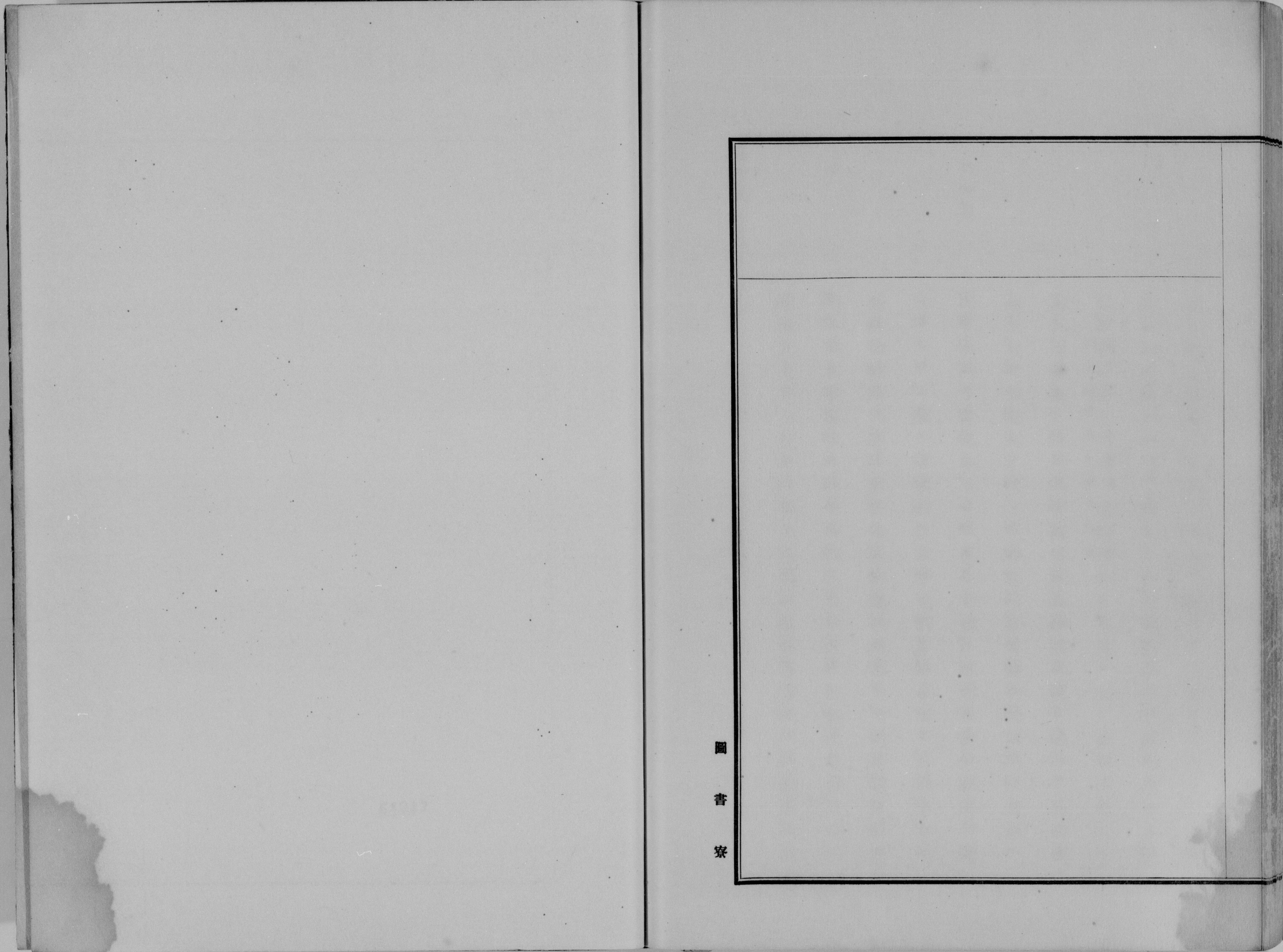


圖
書
寮

3205 395

64047

3205 396

